

令和元年 設計課題 美術館の分室

I. 設計課題

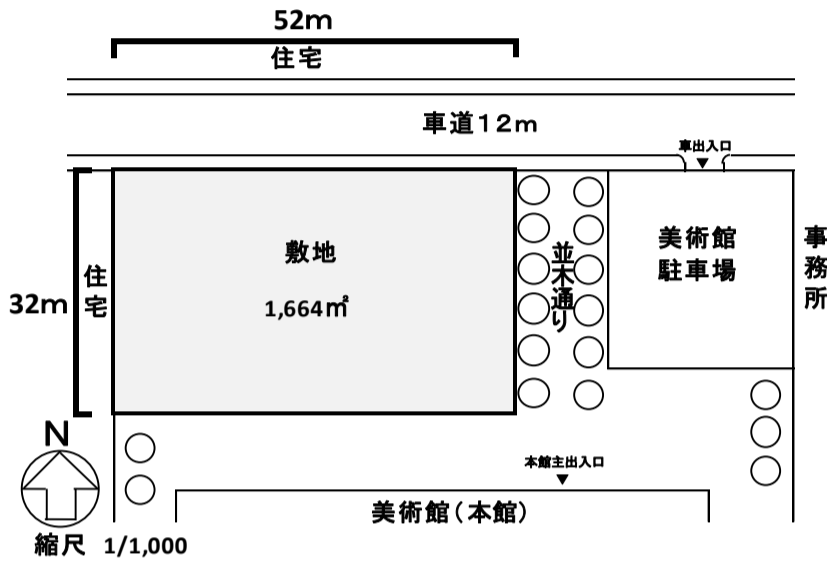
I. 設計課題

この課題は、ある地方都市の中心市街地において、地域住民に永く親しまれた美術館に隣接する敷地に、市民の芸術活動を支援する「美術館の分館」を計画するものである。本施設は、地域住民等が実際に創作を行う場を提供するとともに、施設利用者が憩いの場となる屋上庭園を併せもち、芸術活動と地域活性化を図ることを目的とする。

また、計画に当たっては、バリアフリーに配慮すると共に、環境負荷低減のための自然エネルギー(太陽熱・地中熱・井水)を利用し、快適な室内環境が得られるような設計手法を、積極的に取り入れるものとする。

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。
また、歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできるものとする。
- 敷地は、準住居地域及び準防火地域に指定されている。
また、建蔽率の限度は70%、容積率の限度は200%である。
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- 地盤は、地表(GL)から2mの深さまでは表土、2m以深はN値30以上の洪積砂礫層である。水位は、GL-2.4mである。
- 気候は温暖で、地下水及び積雪についての特別の配慮はしなくてよい。



2. 建築物

- 構造・階数等
構造種別は自由とし、地上3階建ての1棟の建築物とする。
- 床面積の合計
床面積の合計は、2,300㎡以上、2,800㎡以下とする。
この課題の床面積の算定では、ピロティ、塔屋、バルコニー及び屋外階段を床面積に算入しないものとする。ただし、ピロティを設備スペース、駐車場、娯楽スペースに利用する場合は、床面積に算入するものとする。
- 要求室
下表の室は、すべて計画する。

部門	室名	特記事項	床面積
・分室の使用時間は9時から18時であり、レストランの使用時間も9時から18時である。			
展示部門	市民展示室	・市民の工芸作品発表のほか多目的に利用する。 ・無柱空間とし、天井高さ6m以上とする。	約200㎡
	工芸展示室	・名工による竹編み細工、木工作品等を展示する。 ・自然光を取り入れる。	約100㎡
	美術図書室	・美術図書やパソコン資料を閲覧できる。 ・書棚、5人分のパソコンコーナーを設ける。	約100㎡
	休憩室	・20人程度が利用し、テーブル、ソファを設ける。 ・屋上庭園を一望できるようにする。	適宜
教育・普及活動部門	工芸創作室	・竹編み細工等の実習、指導をする。 ・約20人の椅子、机、流し台を設ける。	約80㎡
	アトリエ	・絵画等の実習、指導をする。 ・約20人の椅子、机、流し台を設ける。	約80㎡
	研修室	・工芸等の講義をする。 ・30人程度の椅子、机及び大型モニターを設ける。	約80㎡
	休憩コーナー	・屋上庭園を一望できるようにする。	適宜
共用部門	エントランスホール	・風除室、コインロッカーを設ける。 ・1階から3階までの吹抜け40㎡以上を設ける。	適宜
	レストラン	・美術館(本館)利用者も利用する。 ・椅子、テーブルで約50人が利用する。 ・厨房、カウンター、更衣室、職員用便所を設ける。 ・内外部からアプローチできるようにする。 ・屋上テラスを隣接させて、一体的な利用をする。	約200㎡
	情報コーナー	・館内のイベント情報等を掲示する。 ・大型モニターを設置する。	適宜
	売店コーナー	・レジを設けて、美術関連商品を販売する。	適宜
管理部門	事務室	・4人分の事務スペースを確保する。 ・受付カウンターを設ける。	適宜
	施設長室		適宜
	会議室		約40㎡
	更衣室	・男女別に設ける。	適宜
	指導員控室	・男女別に設ける。	適宜
	守衛室		適宜
	荷解室	・美術品搬入車が荷の上げ下ろしを行う。	適宜
	作業準備室		適宜
	備品倉庫	・非常時の備品を保管する。	約40㎡
設備スペース	・市民展示室の空調機械室を設ける。 ・受水槽室、消火ポンプ室を設ける。 ・電気室、非常用自家発電設備室を設ける。 ・他必要な設備室及び屋外機器置場等を計画する。	適宜	
・便所及び倉庫については適切に計画する。			
・その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。			

3. その他の施設等

- 屋上庭園(200㎡以上)を1階又は2階の屋上に設ける。
通路、ベンチ、テーブル、植栽及び20㎡以上の竹林を計画する。
- 屋上テラス(60㎡以上とし、15人分の椅子及びテーブル)を地上に設ける。
レストランに隣接させた屋上に設け、一体的に利用する。
- 駐車場は、車椅子利用者用として2台分、サービス用として1台分を設ける。
なお、利用者及び職員等の駐車場は、美術館駐車場を利用するものとし、考慮しなくてよい。
- 駐輪場は、来館者用として40台分を設ける。
- (1)～(4)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

4. 計画に当たっての留意事項

- 敷地の周辺環境及び隣地の美術館(本館)に配慮する。
- 建築物はバリアフリー、省エネルギー及びセキュリティに配慮する。
- 各要求室を適切にゾーニングし、明快な動線計画とするとともに、避難等に配慮する。
- 自然採光及び自然通風を積極的に取り入れる計画とし、日射の遮蔽に配慮する。
- 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに、経済性にも配慮する。
- 構造種別、架構形式、スパン割りを適切に計画するとともに、適切な断面寸法とする。
- 建築物の外壁の開口部で延焼のおそれがある部分には、所定の防火設備を計画する。
また、防火区画が必要な部分には、所定の防火設備を計画する。
なお、本建物には、自動式のスプリンクラー設備等を設けないものとし、「避難上の安全」「避難上の安全の検証」を行わないものとする。
- 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、消火設備等を適切に設けるとともに、環境負荷低減に配慮する。

II. 要求図書

答案用紙Ⅰ及び答案用紙Ⅱの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面(答案用紙Ⅰに記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい。)、必要な事項を記入する。
なお、各図面には、必要に応じて、計画上留意した事項について、簡潔な文章や矢印等により補足して明示する。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階平面図 兼配置図 1/200	① 各階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の主要寸法(柱割り及び床面積の計算に必要な程度) ロ. 室名等 ハ. 要求室の床面積
(2) 2階平面図 1/200	ニ. 設備シャフト【パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS)】の位置 ホ. 設備計画に応じた設備スペース
(3) 3階平面図 1/200	ヘ. 断面図の切断位置 ト. 要求室の特記事項に記載されている仕器等 チ. 延焼のおそれのある部分の位置(一点鎖線で図示する)。 防火設備、防火区画に用いる防火設備の位置及び種別(凡例と名称を記入し図示する。)
(4) 断面図 1/200	② 1階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の出入口 ロ. 敷地内の駐車場 ハ. 屋上テラスの面積 ニ. 通路、植栽等 ③ 2階平面図及び3階平面図には次のものを図示又は記入する。 イ. 下階の屋根、ひさし等となる部分 ロ. 2階又は3階に設置する屋上庭園の面積 ハ. 居室の最も遠い位置から2つの直通階段に至る歩行経路及び重複区間の距離を記入する。 ④ 断面位置は、市民展示室を含み、建築物の全体の立体構成がわかる断面とする。 なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高、1階床高及び主要な室名を記入する。 ③ 基礎、壁、梁及びスラブの断面を図示する。 ④ 屋上に設備スペースを設けた場合は図示する。

2. 面積表(答案用紙Ⅰに記入)

- 建築面積を記入し、その算定式も記入する。
- 各階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

3. 計画の要点等(答案用紙Ⅱに記入)

建築計画、構造計画及び設備計画について、次の(1)～(6)の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。

- 周辺環境を踏まえた建築物のアプローチ計画及びゾーニング計画について、考慮したこと。
なお、【補足図記入欄】にその考え方をイラストやシステム図等により補足する。
- 採用したバリアフリーに配慮した設計のポイント(仕様、各種寸法等)について3つ提案すること。
なお、【補足図記入欄】にその考え方をイラストやシステム図等により補足する。
- 下表の主要な部材の断面寸法を示し、創意工夫した点を2つ述べること。
- 市民展示室の高天井における天井等落下防止対策について、考慮したこと(補足図含む)。
- 市民展示室の空調設備計画について、考慮したこと(補足図含む)。
- 環境負荷低減手法(太陽熱、地中熱、井水)について、考慮したこと。
なお、【補足図記入欄①】にその考え方をイラストやシステム図等により補足する。